
明倫短期大学研究会講演抄録

**幼児期の話しことばにおける非流暢性と
吃音の関係**

前新 直志 講師（歯科衛生士学科専攻科，
保健言語聴覚学専攻）

幼児期の話しことばの発達過程には非流暢性時期が存在する。これは神経系未発達に伴う運動機能の未熟さによると考えられ、正常な発話発達過程においては必然性の高いものである。言語外来において安易にこれを「吃音」と判断してしまう場合があるが、両者を鑑別診断することはこの状態の予後を考慮すると極めて重要なアセスメントになる。

幼児期の話しことばに見られる正常な非流暢性と吃音の関係について、音声サンプル、VTRを供覧しその違いと適切な処置について説明した。

第69回：2001年12月13日（木）

職場のメンタルヘルスケア

下河辺 宏功 教授（歯科衛生士学科）

教職員が快適に職務を遂行するためには個人個人が心身ともに健康でなければならない。心と体は切り離すことは出来ない。心に何らかの支障、ストレスがかかると必ず体に症状となって現われる。本講演でメンタルストレス発生のメカニズムについて述べ、ストレスの種類と現われる症状について解説した。そして組織のなかで上司は職員に対して日常どのような点に注意を払うべきかそのノウ・ハウについて言及した。

（尚、本講演は学生相談室講演会を兼ねて行われた）